

授業概要

「新世界」＝南北アメリカ大陸の文化は、16世紀以来この地を植民地支配したヨーロッパの文化をベースとして、他方で先住民の文化および奴隷として使役されたアフリカ人の文化、さらには19世紀以降流入した中国人を中心としたアジア人の文化が、歴史的に層状に積み重なってできている。本講義ではまず、このユニークな構造を丁寧に説明する。その上でアメリカ世界の文化史を構成する異文化同士の融合と衝突の過程を、具体的に説明する。この過程を丁寧に紹介しながら、自立と共生の理念をもって、我々にとって異文化である英語文化圏の社会とその歴史の理解を深め、翻って日本社会の特質を考えることを目的とする。

授業計画

第1回	講義概要 受講心得
第2回	ヨーロッパがアメリカにもたらした文化 ① 自由・平等・民主主義の思想
第3回	ヨーロッパがアメリカにもたらした文化 ② キリスト教と人道主義
第4回	ヨーロッパがアメリカにもたらした文化 ③ 資本主義文化
第5回	ヨーロッパがアメリカにもたらした文化 ④ 工業技術
第6回	アメリカ先住民の文化 ① 生活諸文化：コーヒー・タバコ・カカオ・ジャガイモ他
第7回	アメリカ先住民の文化 ②
第8回	アフリカ人奴隷がもたらした文化 ① 音楽：ドラミングとダンスの象徴的意味
第9回	アフリカ人奴隷がもたらした文化 ② 家族制度：多妻制と父親の地位
第10回	ヨーロッパ文化とエスニック文化 ① アフリカ人のイメージ：「肩越しの授乳」
第11回	ヨーロッパ文化とエスニック文化 ② 奴隷制と人権との矛盾：人権としての奴隷所有権
第12回	ヨーロッパ文化とエスニック文化 ③ 一夫一婦制と多妻制との闘い
第13回	ヨーロッパ文化とエスニック文化 ④ 奴隷制廃止後の人種主義：「エスノセントリズム」
第14回	ヨーロッパ文化とエスニック文化 ⑤ 今日の人種的分断：貧困とレイシズム
第15回	講義総括 質疑応答
第16回	筆記試験実施 論述式

到達目標

南北アメリカ世界の歴史と文化を学ぶことを通して、異文化の相互理解が重要であることをしっかりと認識し、また真の異文化理解のためには一方の文化の他方の文化への押し付けではなく、双方の文化要素を含めた全く新しい文化を創造することにあることを学ぶ。それらの学びを通して、異文化との共生について自立した意見を持ち、発言できるようになる。

履修上の注意

講義は高校「世界史」の知識を前提として進めるので、もう一度「世界史」教科書を読み直し、知識のブラッシュアップを十分にしておくこと。また合わせて「西洋史学入門」・「西洋史概説」・「西洋史特論」Ⅰ～Ⅲの受講を推奨する。理解の深化のためレポートを課す。また知識定着度を測るため計5回の小テストを実施するので、もれなく受験すること。無断での遅刻・欠席は厳禁とする。

予習・復習

毎回授業時間の終わりに次回授業内容のキーワードを示すので、十分に下調べをしておくこと。疑問・質問は、授業時間内に質問コーナーをとくに設けるので、積極的に質問し解決を図ること。授業後ノートの拡充に努めること。

評価方法

定期試験・小テスト・レポートのそれぞれの成績を総合して評価する。その配分基準は、定期試験60%、小テスト20%、レポート20%とする。小テストは計5回授業内に実施予定。

テキスト

教科書は用いない。参考図書は必要に応じて随時授業時間内に紹介する。